



# ニュースレター

## 第48号

NPO法人 日本リハビリテーション看護学会

事務局案内

住 所 〒187-0041  
東京都小平市美園町1-6-1-307  
NPO法人  
日本リハビリテーション看護学会事務局  
交 通 新宿駅から西武新宿線にて小平駅下車徒歩2分  
電話番号 042(346)7226 FAX 042(313)2050  
E-mail jrna@nifty.com <http://www.jrna.or.jp/>



## 時代の変化とともに歩むリハビリテーション看護

副理事長 板倉 喜子 (白山リハビリテーション病院)

はじめに、平成30年7月豪雨の爪痕が残ったままの夏が過ぎた9月、台風21号による強風の被害につづき北海道では最大震度7の地震が発生し、立て続けに起きる自然災害が日本列島を震撼させました。各地における災害被害にあわれた方へのお見舞いと、お亡くなりになられた方へのご冥福を心よりお祈りいたします。

さて、本学会は平成元年に日本リハビリテーション看護研究会として発足し、今年設立30周年を迎えました。これもひとえに会員および関連団体の皆様のご理解とご支援、そして皆様と共に歩み続けられた賜物と感謝申し上げます。本学会定款第3条には、「この法人は、一般の人々に対し、リハビリテーション看護の知識及び技術の教育普及活動を行うとともに、リハビリテーション看護を行う者の育成に関する事業を行い、もって、リハビリテーション看護の向上・発展に寄与することを目的とする。」とあります。その事業活動を推進するにあたり、時代の変化と要望に応じていく学会運営がますます期待される所と感じています。

時代の変化のひとつとして、本年は診療報酬・介護報酬および障害福祉サービス等報酬のトリプル改定がありました。それぞれの現場では、これらの改定への

対応とその後の変化はいかがでしょうか。本学会では、急性期・回復期・生活期（慢性期）・終末期において、リハビリテーション看護が寄与するところは何か、その質の向上や発展のために必要な活動や教育の推進を図ることを目的に、調査・検討を進めています。

また初の企画として、一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会の看護介護部会との合同研修会を予定しております。これからも、会員の皆様のご意見やご賛同を得ながら、拓かれたより良い学会運営に努めていきたい所存です。

そして、今秋11月23日・24日には富山国際会議場において、第30回学術大会および30周年記念事業を開催いたします。演題発表や講演など多くのプログラムとともに、30周年記念講演や通常総会・役員選挙などがあります。現在開催に向けて、学術大会長の中川美都子看護局長のリーダーシップのもと、富山県リハビリテーション病院・こども支援センターの職員の皆様が鋭意準備を進めておられます。日頃の看護の実践や研究の成果を語り、学び合い、晩秋の北陸でリハビリテーション看護の力を輝かせましょう。多くの皆様のお越しをお待ちしております。



# NPO法人日本リハビリテーション看護学会 第30回学術大会及び30周年記念事業

開催日時：平成30年11月23日（金・祝）～24日（土）

会場：富山国際会議場

テーマ：「つなげ未来へ つなげ地域へ かがやけ看護の力」

学術大会長：富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 中川美都子看護局長

## 学術大会プログラム

### —1日目—

- 1) 開会式
- 2) 優秀発表賞候補者による口演発表
- 3) 基調講演「リハビリテーション看護領域で看護師がなすべきこと」  
演者：鎌倉やよい（日本赤十字豊田看護大学 学長）
- 4) 特別講演 I 「患者中心の意思決定支援」  
演者：中山 和弘（聖路加看護大学 看護情報学 教授）
- 5) 30周年記念講演「これからのリハビリテーション看護に期待すること」  
演者：中島八十一（長野保健医療大学 教授）
- 6) 総会（選挙あり）

### —2日目—

- 1) 特別講演「排泄ケアチームの活動」  
演者：青木 芳隆（福井大学医学部泌尿器科講師）
- 2) 調査委員会企画「報酬改定のインパクトと今後」  
演者：荒木 暁子 理事長
- 3) 県民公開講座「認知症になっても家族介護者になっても困らないために」  
演者：竹内登美子（公立大学法人富山県立大学教授）
- 4) シンポジウム「生きる&食べる楽しみをつなぐ」
- 5) 閉会式

その他、ランチョンセミナー、一般口演、パネル展示など盛りだくさんのプログラムで皆様のご参加をお待ちしております。ぜひ、富山にお出かけください。

## 平成30年度 NPO法人日本リハビリテーション看護学会 理事・監事 推薦候補者

[理事 定数 20名 候補者数 20名 (*新任候補)]				(地区別五十音順)
	地 区	氏 名	勤 務 施 設	役 職
1	北海道・東北	熊谷 恒子	東北公済病院	看護部長
2		*佐藤 泰子	青森新都心病院	看護部長
3		*古館 郁子	いわてリハビリテーションセンター	看護部長
4	関 東	粟生田友子	獨協医科大学看護学部	教授
5		蟻田富士子	東京都リハビリテーション病院	看護科長補佐
6		石川ふみよ	上智大学総合人間科学部看護学科	教授
7		*岩川 章子	鶴巻温泉病院	地域連携室長・看護科長
8		荒木 暁子	日本看護協会	常任理事
9		佐藤 啓子	埼玉県総合リハビリテーションセンター	看護部長
10		原 三紀子	東邦大学看護学部	教授
11	中部・東海・北陸	板倉 喜子	白山リハビリテーション病院	副院長・看護部長
12		*浦野妃路美	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター	看護部長
13		*市川 真	NTT 東日本伊豆病院	主任

## 認定看護師活動報告

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師  
広島市立リハビリテーション病院 主任看護師 山根ゆかり

私は、認定看護師になり6年目を迎えています。平成29年度の活動件数は、看護実践76件、看護スタッフ・多職種への教育指導は106件、同相談件数は110件でした。

看護実践では、新入院患者の初期評価を行い、早期離床と生活動作の再獲得に向けた介入を実践しています。教育活動の一つで日本ヒューマン・ナースング研究学会の認定看護師を講師に招き、バランスボールを用いたムーブメントや用手的微振動・腹臥位療法などの看護技術が習得できる研修会を開催し、多くの参加者とともに看護実践に活用しています。筋緊張の緩和や姿勢調整に繋がり、直後に訓練を担当したりハ・セラピストからは「何か魔法をかけたんですか?」と効果を実感してもらえる声がありました。また、背面解放座位による意識レベルの改善や体幹強化による姿勢保持のための実践も導入しています。



失語症患者に対しては、言語聴覚士と協働してコミュニケーションワーキングを立ち上げ、個別の評価表を作成し、フリートークによるコミュニケーション能力向上に向けた看護を実践しています。これらすべてにおいて、病棟の看護スタッフが協力して病棟訓練として実践し、入院患者のADL向上・機能回復のための活動を展開しています。

在宅復帰が困難な傾向にある高次脳機能障害のある患者に関しては、退院調整や退院指導がなかなか進まない傾向にありましたが、マニュアルの作成やフローシートとしてわかりやすく図式化することでその考え方や介入方法などを指導しています。また、教育課程受講中からの課題である脳卒中の再発予防について、服薬の継続・健康管理行動獲得に向けた介入方法など看護スタッフへ教育・指導・相談等行っています。これからも看護スタッフへの脳卒中に関する知識・技術の指導と脳卒中の再発を予防することで「その人らしい」生活が送れるようサポートしていきたいと思っています。



## リハビリテーション関連学会情報

期 日	開催地	学 会 名	大 会 長	テ ー マ
10月 3日・4日	島根県 米子市	リハビリテーション・ケア合同研究大会	錦海リハビリテーション病院 病院長 角田 賢	互惠互助
10月 17日～19日	埼玉県 大宮市	第29回 全国介護老人保健施設大会埼玉	公益社団法人全国介護老人保健施設協会 埼玉県支部長 小川郁男	彩ろう!豊かな高齢社会を
11月 23日・24日	富山市	第30回 日本リハビリテーション看護学会 学術大会	富山県リハビリテーション病院 ども支援センター 看護局長 中川 美都子	つなげ未来へ つなげ地域へ かがやけ看護の力
平成31年2月 21日・22日	千葉県 浦安市	回復期リハビリテーション病棟協会 第33回 研究大会	東京湾岸リハビリテーション病院 病院長 近藤 国嗣	宣言。科学と情熱。

[任期 平成30年10月1日～平成32年9月30日]

[理事 定数20名 候補者数20名 (*新任候補)]				(地区別五十音順)
地 区	氏 名	勤 務 施 設	役 職	
14 近 畿	*後迫 瑞穂	愛仁会リハビリテーション病院	看護部長	
15	高濱 正子	兵庫県立リハビリテーション中央病院	看護部次長	
16 中国・四国	宇野みどり	総合リハビリテーション伊予病院	副院長	
17	*村中くるみ	広島市立リハビリテーション病院	看護師長	
18 九州・沖縄	金山萬紀子	誠愛リハビリテーション病院	副院長	
19	佐藤 史	湯布院病院	師長	
20	山本 恵子	九州看護福祉大学看護福祉学研究所	教授	

[監事 定数2名 候補者数2名]			
地 区	氏 名	勤 務 施 設	役 職
1 全 区	北代 直美		
2	田村 玉美	人間総合科学大学保健医療学部看護学科	教授



# 施設紹介

## 医療法人溪仁会

### 札幌溪仁会リハビリテーション病院

看護・介護部 部長 森河 琴美



札幌溪仁会リハビリテーション病院は、2017年6月に開院した新設の病院です。大学病院や多くの急性期病院を有する札幌市の中心部（桑園地区）に建ち、周りを高層マンションが囲む住宅地にあります。また、この地域は、北海道知事公館や北大農学部附属植物園も近く、北海道の歴史が点在している古い地域でもあり、町内会の結びつきや活動も活発に行われています。



病床数143床、3つの病棟全てが回復期リハビリテーション病棟の機能を持ち、訪問診療、訪問リハビリ、訪問看護、通所リハビリ機能を有し、退院した後も継続した在宅療養支援サービスを提供しております。職員は、常勤医師9名、看護師85名、介護福祉士45名、歯科衛生士1名、リハビリスタッフ115名を含め約320名が勤務しています。病院の理念「親切 信頼 進取 わたくしたちは医療を通じて、ずっと地域とそこで暮らす人を支えます」の元、①最新のリハ機器を使用し質のよいリハ・ケアを提供する、②多職種による機能するチームアプローチを提供する、③地域や街づくりに貢献する、ことを軸に病院運営を進めています。

看護・介護部では、「地域や社会、患者の期待に応える看護・介護を提供する」という理念をかかげ、対象とする人々の個々に応じたケアを提供することを目指しています。新設の病院のため、回復期リハビリ病棟の勤務経験のない看護師や介護福祉士も少なくありません。そのため、リハビリテーションケアとは何か、回復期リハビリのチームアプローチでどのような役割や実践が求められているのか、といったことをひとつひとつ勉強し、実践での評価を行いながら経験を積んでいるところです。

平成30年度の診療報酬改訂では、回復期リハビリ病棟には効率性と成果が求められています。短期間で機能回復の成果を上げていくためには、セラピストが実施する「できるリハビリ」を「するリハビリ」「しているリハビリ」に展開し、24時間患者の機能回復につながるケアを実践し、チーム一丸となってとり組むことが重要になります。今は、ひとりひとりの患者から学んでいる途中ですが、「その人らしく輝く」こと、回復することを信じ、これからも研鑽を積んで参ります。



日本リハビリテーション看護学会地区別入会状況 平成30年8月17日現在

ブロック	都道府県	H28年度		H29年度		ブロック	都道府県	H28年度		H29年度		ブロック	都道府県	H28年度		H29年度		
		継続	新規	継続	新規			継続	新規	継続	新規			継続	新規			
北海道	北海道	12	13	15	2	中部	新潟県	1	0	1	0	中国	鳥取県	0	0	0	3	
	青森県	4	0	6	5		富山県	69	17	83	70		島根県	0	2	0	0	
	岩手県	40	10	18	24		石川県	6	0	5	0		岡山県	63	10	46	3	
	宮城県	8	11	15	4		福井県	6	2	5	3		広島県	74	10	59	12	
	秋田県	19	1	19	2		山梨県	56	25	71	14		山口県	8	3	6	2	
	山形県	6	1	5	2		長野県	10	1	8	2		合計	145	25	111	20	
	福島県	3	0	1	1		岐阜県	0	1	0	0		徳島県	1	0	1	0	
	合計	92	36	79	40		静岡県	68	13	79	8		香川県	0	0	0	0	
	関東	茨城県	13	3	14		5	愛知県	63	7	65		21	愛媛県	126	13	136	19
		栃木県	60	15	62		19	合計	279	66	317		118	高知県	0	0	0	0
群馬県		7	1	1	0	近畿	三重県	1	0	0	0	合計	127	13	137	19		
埼玉県		158	25	165	23		滋賀県	0	0	0	0	福岡県	89	23	79	34		
千葉県		53	4	45	10		京都府	1	5	1	3	佐賀県	42	8	47	9		
東京都		116	35	126	31		大阪府	193	40	192	30	長崎県	9	0	7	2		
神奈川県		139	24	131	19		兵庫県	181	35	169	33	熊本県	6	4	12	5		
合計		546	107	544	107		奈良県	0	0	0	1	大分県	136	10	112	12		
総合計		1,902	389	1,912	458		和歌山県	43	11	78	20	宮崎県	0	0	0	0		
		2,291		2,370			合計	419	91	440	87	鹿児島県	6	2	5	1		
											沖縄県	6	4	22	4			
											合計	294	51	284	67			

## 編集後記

平成30年の夏は記録的な暑さに見舞われた忘れられない夏でした。熱中症で多くの方が搬送されるニュースを連日見聞きしていたように思います。このニューズレターが皆さまのもとに届くころにはずいぶん過ごしやすくなっていることを願います。読書の秋、学びの秋、出会いの秋になることを期待します。

広島市立リハビリテーション病院 増岡 薫子